



特性方程式

λ が n 次正方行列 A の固有値であることは、

$$A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x} \quad (\mathbf{x} \neq \mathbf{0})$$

となるような $\mathbf{x} \in K^n$ が存在することである


ここで、 $A\mathbf{x} = \lambda\mathbf{x}$ を次のように変形することができる

$$A\mathbf{x} - \lambda\mathbf{x} = \mathbf{0}$$

$$A\mathbf{x} - \lambda E\mathbf{x} = \mathbf{0}$$

$$(A - \lambda E)\mathbf{x} = \mathbf{0}$$


$\mathbf{x} \neq \mathbf{0}$ という条件により、 $(A - \lambda E)\mathbf{x} = \mathbf{0}$ は非自明な解を持つ必要がある

 固有ベクトルの斉次形方程式による定義 固有値 λ の固有ベクトルとは、斉次形方程式

$$(A - \lambda E)\mathbf{x} = \mathbf{0}$$

の非自明な解のことである

固有値を求める上で重要となるこの定理は、行列式を使って言い換えることができる

 固有値の方程式による定義 行列 A の固有値 λ は、 \mathbf{x} についての n 次方程式

$$\det(A - \lambda E) = 0$$

の K に含まれる解である

ref: 行列と行列式の基礎 p184、p188~191
ref: 長岡亮介 線形代数入門講義 p258~260

 証明



[Todo 1: ref: 長岡亮介 線形代数入門講義 p258]

Zebra Notes

Type	Number
todo	1